



WOODY VALLEY RACE

We talk to Aaron Durogati about Woody Valley's new lightweight pod harness. By Ed Ewing

Race Proは、Red Bull X-Alps 2023 専用に開発され、Eli Egger、Ondre Prochazka、Aaron Durogati の3人のパイロットによって使用されました。レース用の超軽量競技用ハーネスで、重量はわずか 1.12kg 。レース前に発表された際、Woody Valleyは、レース直後にシリアルバージョンをリリースすると発表しました。最小サイズで1.8kgのこのハーネスは、Race Proから生まれた「超軽量」ハーネスとして売り出されており、ハイク アンド フライ、ビバーク、XC パイロットを対象としています。4つのサイズがあり、2 種類の異なるバックプロテクション（半固定式またはインフレータブル）から選択できます。シート下のレスキュー（大型のリザーブも収まる）、3 段階のスピードバー、多数のポケット、カーボンファイバー製のフットボード、取り外し可能なコックピット、おしっこチューブと キャメルバッグ、ジッパーで簡単に外せる交換可能なレッグ カバーを備えています。レッグカバーは 3 つの磁石で閉じて閉じた状態を保ちます。特に、新しい安定化システムも備えており、パイロットは飛行中にブレーキから手を離さずにハーネスの形状を変更できます。つまり、滑空中に 1回の動作でハーネスを締め、別の動作で開いてサーマル飛行時に体重移動を増やすことができます。X-Rated にすでに登場していたこの機能は、Aaron Durogati 氏によって開発されました。同氏はこれを、運転中に車のギアを変えるようなものだと説明、同氏に詳細を尋ねてみました。

アーロン、Race の開発にどのように関わったか教えてください。

Race は Race Pro の進化版で、ある意味では私好みのハーネスですが、この新しい Race の開発にはデザイナーのクリスチャン・ピアシを含め、他にも数人が関わっていました。しかし、最初からテストしたのは私で、クリスチャンと一緒にすべてやりました。私たちはこの新しい Race を本当に誇りに思っています。Race Pro は壊れやすいですが、より頑丈で、より多くの人に適しています。

背中への保護に、2つの異なるオプションがあるのはなぜですか？

Race は 1.8kg と、それでも非常に軽量です。軽量のポリスチレン製プロテクターか、膨張式プロテクターのいずれかを選択できます。個人的にはポリスチレン製を使用しています。とても軽く、よく機能し、ハイク アンド フライ競技に参加する人なら誰でも使用できます。レースでは、背中をしっかり守る方が楽です。私は背中をしっかり守るのが好きです。胸ストラップの後ろのハーネスを横切る追加の赤いラインで、離陸時に急いでいる場合は、カラビナ レベルの 2 つのラチェットを使用して、膨らませません。ポリスチレンで、ラインを各リア ライザーに引っ掛けます。小さなマイヨンラピッドで、ハーネスを装着して飛ぶだけです。ハーネス用のトリミング システムのようなものです。安定性が欲しいときはまた、同僚のアンセルム・ラウが「アーロン・デュロガティ安定システム」と呼んでいる安定化システムもあります。

どのように機能するのですか？

ハーネスの安定性を調整するには、2つの方法があります。多くのハイクアンドフライ ハーネスには付いていない標準のチェスト ストラップと、この安定化システムです。このシステムは本当に素晴らしいものです。オプションで、接続する必要はありませんが、接続すると、まるで別のハーネスを持っているかのようです。ハーネスを安定させたいとき、たとえば滑空中は、ハーネスを引っ張ります。サーマル飛行中など、より機敏なハーネスが欲しいときは、ハーネスを放します。X-Rated にもこのシステムがありますが、低いので、ブレーキから手を離してトリマーを引かなければなりません。

クリスチャンがこの新しいアイデアを思いつきました。

本当に素晴らしいと思います。ブレーキに手を置いたまま調整できます。ハーネスはロールの動きがなく、滑走時に非常に安定します。そしてリリースすれば簡単に体重移動ができ、完璧なサーマルハンドリングが可能です。ブレーキを解除しなくても簡単にできます。また、コンディションが厳しい場合にも便利です。ハーネスを安定させるために使用できます。



これは Woody Valley 独自のものですか？

Kortel にも同様のものがありますが、これは非常に簡単です。すべてのパイロットが便利だと感じ、適応できると心から思います。ある意味で非常にユニークです。私はすべてのサーマル、すべてのグライドでこれを使用しています。

個人的に導入した他の要素は何ですか？

Race はビバークハーネスとしても設計されているため、ポケットがたくさんあります。サイドにはスティックを入れる長いポケットがあり、バックパックもあります。水を見つけたら、立ち止まってバックパックを下ろし、キャメルバッグに水を入れてから進みます。飛行中はボトル2本分のスペースがある。私の場合、10時間飛行するなら1.5リットルのボトルを持っていくが、ここに収まる。簡単だが賢い解決策だ。もちろん、キャメルバック用のルーティングもお好みで。

他には？

ハーネスにはインフレーターフェアリングが付いている。去年、ハイクアンドフライ競技でよくレースをしていたとき、フェアリングが実際にいくらかのメリットをもたらしているのがわかった。右と左にジッパーポケットがある。特に、フル加速で飛行する時に超クール、私は時速60km/hほどで飛ぶので、パフォーマンスに本当に役立つ。フェアリングはかなり高いので、通常はヘルメットの上部までカバーされる。

でも、本当に気に入っているところは、安定しているところです。だから、バタバタすることがありません。最初、私はクリスチャンに、これは要らないと言いました。なぜなら、以前は、すべてが常に完全に膨らんでいるわけではないという問題が常にあったからです。飛行中に周りで何かがバタバタするのは嫌だったのです。しかしクリスチャンは「よし、じゃあこうしよう。私がデザインして、君が試してみて、本当に気に入らなかったら外すよ」と言いました。そして完璧だったので、私は「よし、そのままにしよう！」と言いました。

コックピットは、Red Bull X-Alps のプロ仕様の外観です...

コックピットには何度も取り組みました。Oudie N と携帯電話を入れるスペースが十分にあります。とても幅が広いです。そして実用的です。私のセットアップは、メッシュポケットに水を入れ、コックピットの胸ポケットにジェルとバーをすべて入れています。さらにクールなのは、下にパワーバンク専用のポケットがあり、ケーブルが外側に配線されていることです。着陸時にすべてを取り付けたままにしておくことも、コックピット全体を取り外して持ち運んだり充電したりすることもできます。

最後に、他に満足している詳細はありますか？

ポッドは交換可能です。破損してしまった場合は、ジッパーで取り外して交換できます。また、Lサイズのポッドをミディアムサイズのハーネスに取り付けることもできます。

ポッドの形状は、足をしっかりと保持するので、飛行中に十分に休むことができます。またChristian はポッド内のラインと縫い目をすべてカバーしています。

私のように、ずっとすべてを閉じたままハーネスに足を踏み入れると、どこかのラインに足を引っ掛けてしまうことがよくあります。しかし、Raceではすべてカバーされているため、絡まることなく簡単に足を踏み入れることができます。



▶バックプロテクション

硬質ポリスチレン製バックプロテクターか、膨張式バックプロテクターを選択できます。

膨張式はかさばりにくく、ポリスチレン製なら離陸前に立止まって膨らませる必要がありません。

▶ 上昇と滑空

フェアリングは短く、かなり高い。ヘルメットの上部をほぼ覆うが、バタバタしない、とアーロンは言う。

ハーネスの特徴の1つは、安定化システム、つまりライザーに沿った追加の赤い線である。これにより、パイロットはハーネスを滑空用に安定させ、サーマル飛行用に緩めることができる。



VIDEO: ONLINE EXTRA



←スチュバイカップ

安定化システム→

